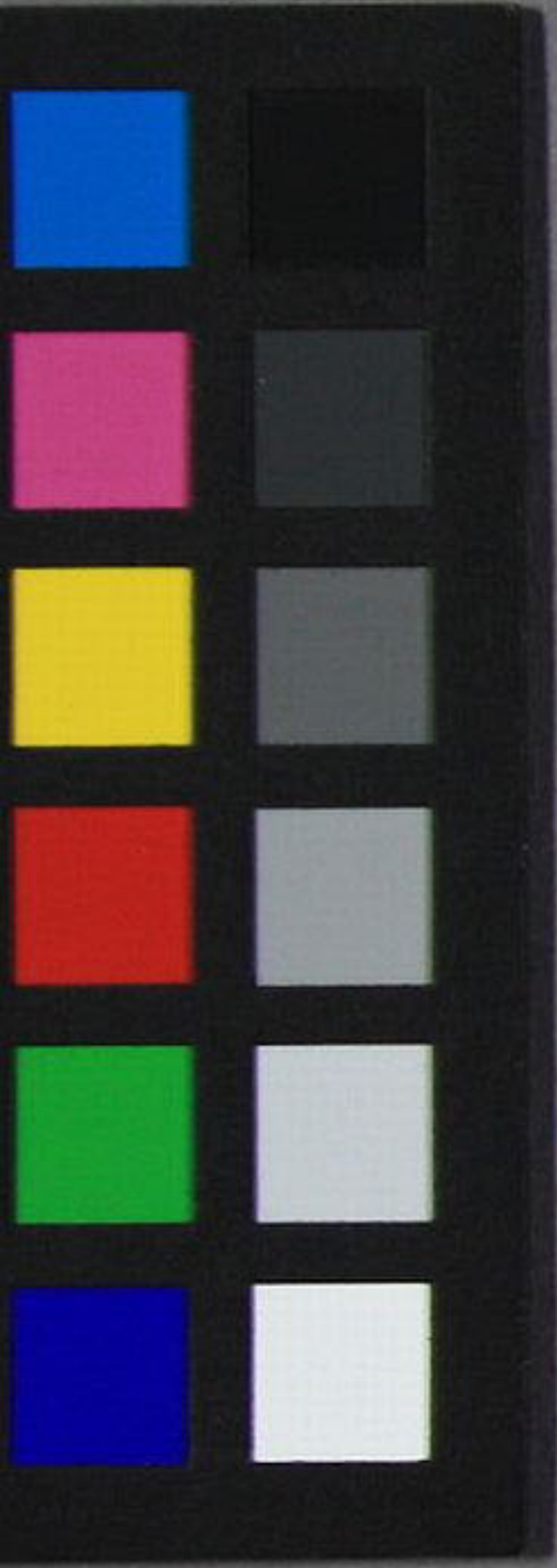


古今
奇談
卷之
句冊





○玉林道人難詰して回頭を屈す話

生土を去て因縁の地は後ハ仕女を林高野あり。
況て雪佛の樹下石上は定めて氣概人の背て悪
くを受て厭ひす。倚傍がく記を却て意ふ人も殊勝
あり。又怒りたるゆゑに閉まらば八重むくも憂厭
くなり。喬木は攀倚荆棘を撥きの踐むも。
多居するの繩強狭くそ。剃髪して大事を忘れ
すハ善くしと去る大徳のいぬそ天子こそ一り
のいあし。こゝに人を容ぬり世を過ぐるそ法号
ハ失記なり。時の人回頭和尚よ。常に人は新して
回頭を後ハ人感水て跡見よ。汝波訶とある名す。
實もがく塵情の籠る人。仏号礼参の業もとらぬ

清早の室を掃い徳をひきよめて。向ふ山の露茶を
火煙れ中より遠く。おれは松を倒して湯の沸
勃き立てて独坐の況とす。宜なるる飲の茶止る
是より見しとす。少輔持春細川氏友九比音問
連るるまはる。焚香執元宴禮茶理の法とす。大石
たんとす。其し王林道人とて文筆多て。徳長なる
焚香執元宴禮茶理の法とす。徳長なる。此
しつりし。其も捨ず。後大禪師の教して大氏を
覚悟し。人ある。此回頭の性急なるを取て
し。常の故言。其く末末の痛。彼ひひをよ。此
ハ井田の僧。然く。心。燧。火。狭く。く。

我身意のちりて。列は結自在あり。不勤の
人よ。心を用ひ。栞的を執り。濁る。此
のあり。手押してゆらぐ。我師ある人。
茶七を不可徒と歌して。是程をて。因に。此
是より。彼。心。茶。幸。路。此
肩廣く。平。此山と。此
二ツも。楊伽。此山と。此
結。香を。明窓。浄。紫。一。目。の。潤
を。送。泉。に。自。奥。と。の。奥。と。の。奥。と。

て人より事への道りと。と師をまへて容れぬ。玉林此
人其性急を愛いて。皆乃握有り。但靜動淨釋
記す。世の俗情の極微あるもの。いづの幼りかき
や。人の心あり。一分の見。必ず腹が背し
時。回改自身。此真像を自照。とて聲とこふ
玉林即ち書す

致。或。猥。事。稀。有。此。魁。鬼。自作自己解。

狐。画。不。動。戲。席上。と。流。び。痛。笑。て。聖。人。の。邪。ま。あ。き。奇。な。り。か。

天童抄
抄

諍ら。し。と。して。何。と。せ。り。俗。の。混。を。バ。俗。徒。も。す。し。
素。入。の。極。ハ。自。己。の。四。字。解。添。て。詩。も。清。り。天。狗
の。佛。像。を。ま。し。り。予。も。表。見。せ。ぬ。バ。信。ぬ。俗。も。あ
り。此。禪。工。そ。あ。は。の。の。り。此。禪。事。は。實。釋
よ。中。の。ま。さ。せ。針。の。飯。を。進。り。ん。と。云。そ。席。上。の。百
尺。竿。改。一。歩。を。進。む。と。し。を。敬。み。て。玉。林。此。意
就。が。し。と。侍。年。々。回。頭。書。す
竿。頭。盪。簡。淨。妙。坊。殿。回。擬。寶。牛。騎。殿。堂。意
有。皮。有。筋。莫。作。放。下。一。様。看
是。を。捉。ぶ。人。も。あり。人。を。捉。む。は。何。を。為。す。も。自。己
け。し。れ。ず。殊。勝。此。大。德。顔。して。真。如。の。波。の。起。ぬ
目。も。な。し。と。唱。へ。て。は。是。を。留。め。ず。脱。て。あ。く。名。と。り

おとちと此うらに... 雲山の秋也市前
又契りてしとく... 君来ずハねおし六
そ情... 利益あり... 先も城を知れぬバ
一僧英もありしと... 幅の歩を練る流女... 玉
林の書も亦む... 少輔... 一... 十二... 流女... 玉
有智去... 多情... 換... 狐... 関
回頭云... 温柔卿... 趙飛... 燕... 故事... 温柔の卿...
也... 狐老... 願郎... 妓女... 遊... 正月... して
云不あり... 去と換... 愚... 知... ず... 云... 温柔卿... 弘...
て郷... の... とも... 用... 由... 便... 後... 以... の... 多く... 用... 了... 主... とも... 不
きて... 正... 人... を... し... 狐老... 元... 姻... 婿... あり... 省... 月... 決... こと

狐老の字はよく通へば... 多く用ひる義を奪う... 試
去ハ一去してきて... ころ... の義なり... 換ハ杖... こと
けさ... くれ... あり... 回頭... 畢... して... 又一... 懸... を... 祭... 句... して
新... を... 請... ふ... 俗... 中... は... 山人... あり... 愚... ハ... 知... ず... 如何... ある... こと
山人

耳欲攀高他カ村ハ認假山人

山林... 心要... 拒... 蔵... 自... 賢... 財... 主... 買... 假... 古... 董... 一

山人... 名... 假... 君... あり... 好... 画... 買... つけ... 賞... 額... を
好... 山... 人... あり... 貴... 人... 一... 室... 光... あり... 叔... 名... 一... は
此... 新... の... 龍... 衣... 物... の... 出... 会... あり... 一... 日... 回頭... 道... 通... して... 少... 輔...
の... 館... あり... 近... 所... あり... 引... て... 書... 斎... あり... 法... あり... 書... 童... 伏... 侍... して

茶果を進む。此斎中名人の書画玩者古雅の書
 續二百許景の積む。己又主人出て法を交ふ。回返
 を入めがしむ。天家此厨蔵是の書。但書籍
 多持人らぬ物にてい。少補云。實は先知言の如し。
 掛幅の東坡の畫。語。西風昨夜吹過園林吹落
 黄花滿地金。是氣如句ありし。此句を題と
 して。幽風をこしと互に思ふ。回返
 けさる。水バ地根よりあけ。若新造まの心の
 風く教わさるはる。
 煙中雜わさるり。少補云。こころは白なり。他
 心は理窟なり。
 云々の。ちよと喉て。枯くわい。わき。風は。花よ

ちの花の毎
 回返云。氣の散るぬ物。秋氣の落葉を。秋の
 聲。聲なり。園史云。花。辨結密る。わに。落葉。扶
 疏。わい。風。過。こ。散。て。地。落。こ。し。は。花。こ。そ。ち
 ら。根。さ。か。ま。あ。や。う。の。散。を。あ。ぬ。さ。い。つ。そ
 香。と。つ。け。ぬ。り。少補云。へて。替。辞。也。落葉。花
 ち。り。ぞ。し。ぬ。さ。い。俱。く。逆。へ。計。る。せ。こ。と。也。ち。ち。と。也
 こ。と。ま。す。聞。く。と。あ。ら。う。花。の。初。終。あり。葉。は
 直。く。散。り。し。ぬ。が。安。ら。う。し。此。二。句。の。揚。州。の。菊。花
 こ。そ。散。て。地。に。落。る。五。荆。公。の。作。を。秋。陽。が。知。り。て
 難。や。ら。知。り。て。難。や。ら。己。よ。を。記。あり。是。こ。上

人の傳説たるものなり。回返る解て。げまたたきと云。少
捕真の事にして。以てし書。何の事なりとも一冊
を以て開く。不の行。二三の字を補ふ。已暗くその句を
足す。回返る事なり。書量。今にして。故。意。馬
る。唐を後。三層の。中。も。取。り。め。主。客。の
簽。を。檢。て。言。ひ。む。書。量。一。冊。を。以。て。云。と。云。ら。め
なり。少捕云。その上文。の。酒。を。し。と。云。ひ。れ。れ。バ
。回返る。源平の能の五節。の。暗。撃。の。段。は。伊。勢
平氏。の。目。あり。と。云。は。り。少捕云。伊。勢
國司の記。忠。盛。の。平。氏。と。云。は。國。人。あり。多。度。の
神。一。千。度。と。云。は。し。て。滿。ち。し。一。の。書。を。以
て。り。と。云。は。し。て。酒。を。し。と。云。は。り。少捕云。伊。勢

なり。また。目。を。以。て。ひ。つ。ま。は。け。く。は。官。階。心。ま
。一。と。云。は。り。と。孫。の。世。と。云。は。り。と。云。は。り。と。云。は。り
。不。の。例。目。出。た。と。云。は。り。と。云。は。り。と。云。は。り。と。云。は。り
。回返る。一。試。せ。ん。と。云。は。り。と。云。は。り。と。云。は。り。と。云。は。り
。一。冊。を。取。り。し。む。書。量。一。冊。を。以。て。云。と。云。は。り。と。云。は。り
。少捕云。を。以。て。書。す。六。稿。已。矣。之。矣。字。數。合。一。り。や
。回返る。愚。心。の。野。史。則。天。石。薛。教。曹。を。以。て
。して。如。意。局。と。稱。す。折。り。人。を。以。て。云。と。云。は。り。と。云。は。り
。一。の。の。辞。を。以。て。云。と。云。は。り。と。云。は。り。と。云。は。り。と。云。は。り
。の。時。長。河。武。國。山。は。你。き。大。元。あり。大小。二。の。野。干
。は。る。棲。も。皆。く。愛。し。て。美。婦。人。と。あり。男。子。を。後

い来て偶をなす。小く意のゆくやうにばらばら
ては合ふ。或時刻劉璽と云ふ男子はたはらう。穴は
ては合す。あ妖をいして如意君と稱す。二妖互に出
て食を求むに。妖は看守して逃去を拒ぐ。後
い帝より其妖をいして。劉璽心は恐を
我抱く。一日大妖出て食を求めゆ。乃て。河
外より。如意君安樂ありや否やと問ふ。小妖内より
答へ。窺ひて。之を咲まると云。是より。妖争ひ遊
逐く。嵩山と噪す。熊人一のひ徳て。其詳を
河にあり。世の拾遺記。は文逸より。是董卓
曹操と云ふ妖。たはら。劉璽。即ち漢の帝位あり。
野干。妖。似て善木。外。獸と云く。人を食ふ

はは種ある。如意君の名を教曹とあして。具
天。此年号を如意と改し。穢談は。高教曹と云ふ。妖
長棒。樵見の句あり。大陰の人乃名を教曹とせし
野。果なり。回。妖。て。無。谷。の。事。意。い。し。先生
大。言。臆。あ。る。か。と。稱。して。自。身。が。入。り。果。を。吃。して
ゆ。り。去。る。妖。目。を。い。して。少。捕。志。獵。の。肉。を。い。て。獲
る。小。舎。を。長。者。と。提。げ。せ。回。妖。の。魔。を。入。り。て。息。を
と。眠。蔵。の。う。ま。り。間。を。踏。る。時。和。尚。怒。る。色
見。て。て。倉。の。靴。を。脱。し。腰。に。か。ま。へ。て。突。出。す。妖。靴
は。た。は。て。是。合。標。の。活。人。活。人。活。人。と。叫。ぶ。妖。も。走。り
的。ま。り。い。く。ぬ。は。片。手。に。音。も。あ。ら。ず。百。餘。一。止。り。ま。り
便。ち。安。座。を。回。妖。も。活。人。を。投。て。は。活。の。死。活。の。轆。ハ

なり。世に八巻作て版立ててんせしは、人ご欺侮せよ。穢
の還りといふに、僧家へいと不言をうりて、法の文
を説き出さるるものあり。莫と妄想の天窓を、三
前をんせぬ法あり。憎しむなり、歎しむもあはれ。地球
極の塊りなり。何ぞ意らん、学上の珠作して、眼
中の沙と作りしや。先定のなきを、足下と思は、始
り苦行にて交る苦友とありし。故ありか。茶を
乞して厭ず活る。思遠く移らば、足下も久しう
に俗を離るべし。機ありと云。回返、善性、粗暴ありし。
世に才ある人を、見てもいふて、聖賢とあり。少補、愛
さしして、聖賢は、良く借りて、聖賢とあり。少補、言
とらず。聖賢、氣をいひて、留まらず。云々、いふども

人、因りて、世に。究まらば、古今前、一人を、後、一人
の、後、りて、人、世の、後、一人を、後、一人
の、一言、半句、怪談、雑、一、説、き、あ、り、に、こ、え、す。
言、い、伏、して、聖、賢、の、氣、を、い、ひ、て、留、ま、ら、ず。
と、別、号、し、て、五、び、失、言、せ、ぬ。若、し、此、を、更、く、し、て、い、は、く
世の、静、ろ、く、ぬ、は、い、り、ぬ。幾、程、か、木、真、の、此、サ
補、持、春、信、と、あり、氣、を、い、ひ、て、鳥、下、の、味、名、れ、西、ある
偏、師、の、端、は、幽、棲、す、と、い、ひ、し、り、り、付、ふ、は、た、ま、を、
秀、免、の、和、の、底、を、い、ひ、て
啼、あ、り、す、お、の、が、同、じ、く、い、ふ、ぬ、ま、を、こ、く、見、て、い、
さ、や、し、り、れ、り、ぬ

○猥瑣道人 水口を辨し 五官の音を刻つ話
隠逸の趣は身を我れものごとく動くとある時四方城を越えて花紅
糸を打ち月の華半もなほ残る子て水の便便つれて遠き
山水の地一遊を出病を辨着あることとて一歩の地を夢さるる
籬わらふ葉をぞひ須るを芥子の内も舞中を舞む。空の
由は一瓶半余の清香を狼藉を卑し半障片幅の池を
出徳を樂しむ。潘掃の筋力を披舞し。晚飯の美酒を
生す。塵俗の難具を自ら猥瑣道人とて。花を
自在と頌し。飲を若若と執しむ。時つきた大團を唐の
好子もあらず。そを越を叩く人もか。身のかうてこそ。人利
益なきも冥加いうま。五音此人相を施す。は道や。こを
そ人心の合せて我より命へり。は来の命をるや。故あるべし

花は後と頼む。道義をばうる人乃心緒を乱り。五倫を害
あり。男は女の時を頼ておるは慈量成す。女は今を假して
こぼせしを期を骨はは上よりす。その中奥の侍も海
せし高月を。抑揚の心を用心し。叔は弟とそ人情を近
縁して相を求むるのよし。さよふべき相者も後の富貴
を祈ると。物も多あり。勝もさる者相もなす。無相もなし。あ
らば苦忍も衆紂をくし。衆の堪る高商の妻来りて相
を求む。女夫の相もさる。自身の相もさる。くんとくんと
縁て清けしは是を聴相もさる。其言おる富正して。室家小
閑しく。朝暮あましく。流さふ。又一賢人を相して。是下
素性此人あり。志も平士あり。今高とある。財
利は必ず名利は必ず。流さふ。是等皆後命も相す。

相は後者。平三郎を信じて。富山政長の家人あり。道念を承
て子思尚慶十三より。大和の奥郡へ忍もせ。自身は
出家して名を包む。紀の廣くふ。出居自炊けり。幼
ずり。葉室細言は伏察して。才学あり。まは。神く。葉室
親長とて父大和の侍。神儒の学は。深りし。好風。親長
も文字あり。詩歌正あり。張瑛の信る。心も。ちあ
こより。道人の。入る。探。ま。わ。り。交。り。素性。を。下
せり。世よ。大人。高屋大度。坐して。心。を。逸。し。め。り。も
さ。し。人。は。遠。け。し。寂。し。く。小。舟。学。志。を。開。き。古。人。の
書を。讀。も。あり。容。儀。の。茶。室。を。圍。み。て。位。高。き。ら。一。巻。の。文
用の。辨。易。を。空。夫。し。水。差。の。書。を。量。け。ら。り。せ。り。秋。室。の。道。

退屈偶の風流も珍しく。山下は草菴も光輝を及ぼし。
 道邊の小船は忘舟を刻とあり。小亭幽籠、自らぬ袖
 の傍近き小橋、深きまで。や、初なるものなり。下民のまと
 して、己が耕を畝の端せまく居て。常は棧柵、少くは迫りし
 る分、己は甚ほやまふ。さふ、はうき、城、以て、は、く、ぬ、流、り
 とも、知、び、ま、ら、親、長、家、も、迫、り、し、し、窓、の、内、は、窓、の、配、偶、し、を
 心え、ある、こ、と、問、ふ、云、な、下、下、も、物、成、排、列、ハ、様、回、方
 梅、花、櫓、を、固、め、れ、九、一、物、あり、し、右、は、け、無、さ、し、必、用
 の、実、忌、の、野、を、使、を、ぬ、り。好、事、の、老、忌、の、雅、の、観、を、心、り
 ら、す、す。雅、も、用、の、人、多、け、ま、は、俗、や、み、り。俗、も、稀、な、る、れ、に、
 雅、は、風、す、天、竺、の、山、水、に、眼、下、に、在、り、し、も、人、物、の、掛、幅
 は、美人、数、流、し、し、心、地、を、心、さ、す、や、親、長、云、實、も、山、上

此山はよく、舟中、舟、の、つ、り、の、樟、さ、し、の、第、一、奇、常、小
 窓、際、に、け、あ、る、の、自、然、あ、ま、い、ら、し、し、報、夕、ふ、た、者、す、る
 所、を、い、た、小、舟、より、や、み、く、窓、を、兼、ね、極、を、同、く、し、社、人
 等、は、あり、て、我、者、は、使、役、を、ら、が、く、な、り、便、益、の、あり、ま、て
 自、在、の、誰、も、い、ふ、不、あ、る、れ、に、和、尚、の、自、在、庵、も、家、を、出、さ
 る、名、は、い、わ、れ、ん、云、是、優、り、よ、出、家、と、名、を、竊、め、は、考、修、朝
 野、の、河、顧、る、人、の、為、に、役、け、て、塵、壺、を、蓋、せ、ぬ、云、地、は、似
 て、窓、の、外、は、根、を、標、せ、し、袖、を、標、せ、し、自、然、と、瘦、せ、
 紐、を、架、の、石、の、有、ま、に、出、る、り、動、作、焦、燥、て、頂、を、擯、へ、ま
 低、楯、あり、身、心、を、降、伏、し、て、背、を、踏、む、の、小、窟、あり、水、は
 山、後、より、一、流、を、是、第一、義、あり、泉、源、近、き、は、毒、あり、
 汚、濁、の、流、を、受、く、る、に、潔、く、ら、ん、井、水、の、岩、を、手、地、に、居、ら

たりあり。定ハ的ヤ。潤的づくず。そたどるなりあり
 ならず。自ら筆、書し画も轍を離れけらば、親長一幅を持
 せまりて。書畫し終る人ハ人の世を知らじ。和尚の鑿金を借
 らんと。そ壁に掛張りて。日鏡の浦挑。故ありて河内在依
 りり給る。柱紙は真相乃鑿金あり。根預は大小傳
 未あり。貴物なましと進で入退て着。主雅波を美称
 也。そ心を造る事示されまはて。諫忽の過つ究めごと
 余あり。幅紙の先朝うし。知均子の印色後。麻油
 朱をすそとぬ。是ハ画友進の癖を素より落款な
 りべし。後人姓名を捨てる事あり。親長ハ僕ハとい
 もそ切あありぬ。高鑿欲依あり。是を以てふふせし
 傳來臨りて鑿し頼て七人の筆を欲ある程ハ貴なりハ

る。七人の手跡此因縁乃家ニ造りしハ奇偶なりし。
 美を慕りて類せんとす。二品三品をるれそ子くも欺
 き張拍く。骨を賞して良馬に到るハ物下をぬ。鑿一
 尺ふらハハ。贗魔一文高し。傳來を授ありとす。小ハ
 証ハ贗作。鑿し人をはたす。鑿者自ら欺き人を欺
 く。鑿し亦欺む。はと神れ。此親長ハ人の知る相
 知あり。はハ。は。茶も信で来る。帶人。和尚。托して眼を
 備へんと。は日信者門は屋を建てて入來をかり推す。
 道人櫃を造の。鑿をばし。始りて。介せし。親長礼
 儀して。先和尚一證と辞。時。信あり。不。其。愛。元
 ざも。粗。忽。あり。五音とて。試。し。手。列。ぬ。休。え。
 先中根。根。あり。し。そ。そ。張。き。鞘。を。半。で。授。け。て。指

を以て導くこと幾あり。云是二百年の疾るなり。又一條
を以て導くこと幾あり。云は劍の彼より二百年たり七し
を以て導くこと幾あり。云は劍の彼より二百年たり七し
地色白く沸き多く。背より多く。後なく。云子の銘あり。
是寛弘の御治行平のお物。是を古作の銘あり。今一劍を
以て導くこと幾あり。云は劍の彼より二百年たり七し
作は秘せず。是の其の行平とて考ふ所の御治あり。実
に寛弘を去ること二百年に近し。五部の御もまた奇なり。れ
感じし。賈人も劍相なり。是を妙とて鑑定成りぬと
悦ぶ。一項山背の宇治の水道。土沙柵れ肝煎を令せ
らる。彼よりまわれば。飛湯の志なり。後より道人
おし。是の氣を導くは。遠根より。導てゆふ山

をめぐれ。水の中峽を酌て中焦を治せ。又順流水を用て
下焦を治し。急流水の濁を濁れ。濁れ。濁れ。濁れ。濁れ。
少し。茶を煮。は。分。別。を。行。す。試。みる。事。なり。公。は
貴人あり。宇治。夫を督。する。幸。あり。一壺の溪水
を以て土。義。又。縁。れ。彼。流。の。鹿。鹿。を。上。峽。と。し。
湖水を以て。湖。に。入。る。事。なり。志津河を中。峽。と。し。宇
治橋の汲。を。以。て。決。と。す。は。三。峽。の。内。に。人。下。峽。を。善
とす。是。が。欲。す。は。是。中。峽。なり。志津川と。合。て。水。勢。盛
ある。事。なり。親。長。先。程。の。庸。易。あり。ん。事。なり。け。い。り
は。道。人。あり。疑。待。て。善。あり。や。う。て。こ。そ。と。て。お。れ。ぬ。
親。長。公。命。を。奉。り。彼。より。夫。舟。を。引。せ。て。論。を。而。して。下
り。陸。行。す。あ。ら。う。の。長。者。より。か。う。り。は。志津川の水こそ。猥

淡菊のあつてゐる。河川上の柵をて候。文
己舟をりけ流し流す時。水路名ふるり。文
花もよ。景物も奪きて。何を失り。誰もよ。湖
水。懐廣くして。娘のふる。京地多く。越して。穢
の。山宇治。北東。河をふる。不せま。一山園。流を引
ぐやく。山宇治。近。流。王。孫。公子。遊。賞。絶。え。ず。
永。古。来。多。く。林。麿。小。方。か。あ。て。雪。ふ。よ。る。也。る。朝。日。山。の。
誰。も。吃。て。眺。望。せ。り。古。位。を。め。は。り。流。す。宇。治。の。弱。
布。子。の。山。陵。こ。そ。ふ。け。き。細。代。禁。制。の。石。海。因。魏。院。
と。愛。と。砂。洲。は。立。つ。時。も。山。吹。の。花。は。此。平。等。院。の。前。
り。川。邊。は。流。て。橋。の。下。流。の。傍。へ。咲。け。り。は。落。日。は。
新。を。あ。り。て。川。邊。の。金。色。を。あ。す。親。長。見。て。林。堂。

の名空しく侍りすと。侍。現。を。侍。へ。め。的。で。尽。ま。ば。又
湯。す。遠。く。お。そ。と。史。三。方。ら。木。樺。流。水。急。唯。恨。盡
遅。来。を。吟。し。て。興。は。入。り。金。風。の。山。吹。は。流。と。氷。ぞ。入。り。
花。は。心。な。り。り。し。う。先。丁。そ。瓦。礫。の。り。ど。ら。の。あ。と。
秋。草。山。吹。名。有。則。有。烏。黄。金。不。換。金。日。此。時。
は。あ。ひ。に。急。流。を。り。も。た。申。さ。す。速。に。柵。を。さ。て。け
お。バ。舟。子。を。さ。け。ひ。て。今。下。へ。舟。を。上。げ。せ。候。せ。と。
は。急。流。い。う。て。心。ま。り。せん。植。の。島。は。い。く。る。不。詮。督。後。
廠。は。い。り。て。又。こ。そ。急。流。は。柵。を。と。手。づ。く。一。壺。の。水。
を。汲。挙。て。岩。は。上。流。の。水。中。缺。は。い。く。り。中。缺。の。水。下。缺。は。
流。し。い。は。れ。三。の。差。別。り。し。わ。と。瑠。璃。の。瓶。け。入。り。
重。く。封。を。加。へ。名。水。神。ひ。ぬ。と。監。督。の。景。落。成。一。年。紀。

鍋中へ傾け入る。其湯をゆて味づけし。何
ぞ中火の水なりし。まじりて。爐の上せ
茶を試る。及ぶす。壺を測て中や。彼上法
お目く水。うらうら。土気ありて重し。中火の水。あせせし
土沈て。種し。中火の物。滞り。沙濁。まじりて重し。其
袖。中火の疾あり。試し。中火の水。はて茶を服せ
んと志す。是下。何ぞ。思て。服用を。澄ます。親長。大
は。驚き。是。僕ら。上人。を。試る。は。水。我。手。づ。く。及
て。和尚。の。命。を。奪。す。弟。て。近。侍。ら。ん。と。て。敵。を。討
是。こ。と。と。比。者。抄。一。壺。を。召。し。て。試。む。と
し。道人。便。ち。教。簡。を。召。し。つ。し。其。湯。を。試。む。

て。是。こ。と。と。大。小。後。て。納。め。り。親。長。を。通。の。宣。り。を
る。を。感。じ。友。誼。い。し。親。し。かり。し。其。此。の。時。江。か
石。丸。の。何。某。命。を。奪。つ。て。美。農。の。齋。藤。を。征。す。
敵。加。勢。多。く。却。つ。て。散。る。打。負。石。丸。も。戦。死。す。
畠。山。政。光。大。家。に。御。告。り。て。大。和。の。回。井。の。城。に。入。り。て
んと。道。を。探。せ。り。往。來。塞。り。て。自。在。を。失。す。大。家。を
河。に。和。せ。り。す。泉。接。の。鳥。懸。の。民。衆。を。い。を。み。ぬ。ふ。
界。の。高。人。と。番。を。何。某。畠。山。の。齋。藤。好。丸。に。君。を。そ
家。を。思。ひ。せ。り。旅。人。の。体。を。入。り。せ。ぬ。と。告
り。我。は。私。口。より。妻。女。の。容。れ。召。し。入。り。し。と。約
し。け。る。と。に。政。光。先。づ。り。て。山。を。登。り。て。ひ。お。か。回。

して待てる。まねも言はずりて小止なり。はまの木澤
さし商人物ふけて通りありせ。木復の歯とまじり咬
雪子。川の枝を叩き落しける。内より唯と答ふ。政光
能く五音を聴たれ。云。は木音合て宮を離る。是身
医すの信にありん。似せて叩きは程用心まべしと。内
戸口は待設けし。女人の使女。戸を静に開き。元
り火いさす。暗ね。侍手を掃て。まゝ奥
市景因。屏風立圍る上壇。請する。政光物かけ
より見て。羅敷の子ら。い。こもしてあれをせ。い。海
すべし。立身の子なりといひて。そ。牙。は。光。如。は
運ひ。後門。ひね。女房出て見て。さ。美。此。思。い。せ。ぬ。と
も。い。う。て。新。銭。お。市。様。作。り。と。段。勤。と。云。的。

して。面目を失ひし。う。あ。夫。教。日。の。他。國。を。幸。に。逢。ら
し。故。あ。る。人。を。夜。中。は。招。入。ま。し。前。心。ず。も。あ。り。や
市。方。の。泣。入。り。け。り。ま。い。ゆ。し。り。ま。ま。罪。を。過。さ。し。
只。希。い。く。視。便。の。意。を。結。り。人。の。者。の。よ。と。な。れ。と。
金。包。銀。包。を。申。して。賂。ひ。け。り。は。男。老。を。い。さ。し。交
ず。は。同。答。あ。る。と。ま。出。る。時。早。く。も。床。の。棚。な。り
一。髪。は。齒。を。取。て。仰。り。し。を。そ。時。知。り。り。り。政
光。は。互。て。は。あ。り。君。を。思。は。せ。奉。り。通。話。は。あ。い。せ
て。数。日。の。後。深。井。の。城。へ。入。存。り。る。が。幾。ら。ど。も。あ。り。君
を。敵。と。取。れ。進。退。を。失。ひ。山。口。の。侍。前。を。慕。い。用
防。より。り。ぬ。却。て。元。彼。一。髪。は。真。主。の。重。寶。の。成。失
ひ。て。家。因。探。ね。迷。ひ。り。り。は。彼。商人。木。澤。は。女。房。の

親里入江をよくり。吾輩は我許よるやぞと告
げし。女子の難を披ひ。は笛をた返さんなる。金
を。我ら富山政長の家へなり。年来平野の花
井を討て。我世子よかを興させん。私ひあり。助
我入る。とやさす。吾輩か。諾ひて。そ費用を
まかるし。持堂の趣。近ごろ。聚會して。手配を定
む。杉原遊佐の入り。共々平野へ夜討して。花井
を難を討てり。遂に主君尚慶を清いなり。
河内の高なれ。成を築きて。指し。早ぬ。彼
政光と木澤と。お会い。は一味あり。マ。猿頭水
音を知り。政光木音を知。そ侍。一流して。生

偽は。年たり。但し。御を。おぼて。知。ざり。り。新
家。妻。女。い。真。室。家。の。相。あり。て。一。時。の。急。難。に。並
実。の。名。を。願。ふ。す。木。澤。の。名。を。あ。り。し。僅。く。符。合
せり。但し。猿頭。が。相。せ。り。人。あり。水。金。木。の。定。り
る。無。情。の。物。を。音。愛。る。子。あり。人。は。是。活。動。智。を
用。物。未。来。の。命。づ。く。と。か。く。の。や。

